

2020 年行事予定

巻 頭 言

2月8日(土) 第1回常任幹事会 終了
5月～7月に予定されておりました、
春季大会、教育セミナー、振興セミナー
はいずれも開催中止となりました。

日本臨床検査専門医会
会長 谷 直人

5月21日(木) 第56回日本臨床検査専門医会総会(メール審議)
9月5日(土) 第2回常任幹事会
11月11日(月) 臨床検査の日を中心として全国検査と健康展
11月19日(木) 第67回日本臨床検査医学会学術集会(盛岡)
～22日(日) 第2回全国幹事会、
第57回総会・講演会

本年度より、登会長にかわりまして日本臨床検査専門医会の9代目の会長を務めさせていただいております。私の恩師である森三樹雄先生も当会の会長を務められました。昭和から平成と、多くの臨床検査専門医の尽力により発展してきました日本臨床検査専門医会を、令和という新時代へ継承し、さらに発展させることで、出藍の誉れと言われるよう、皆様のご指導・ご協力をいただき、この重要な職務を全うすべく努力いたしたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。幹事委員には若手の先生、とくに女性の先生を多く登用いたしましたので、当会の運営におきましては、これまでの良さを継承しつつ、より細やかで、新しさも出していければと思っております。

中国武漢市を発生源とする新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、WHOにてパンデミック宣言がなされ、我が国においても4月7日に安倍晋三首相が緊急事態宣言を7都府県(東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡)に発出しました。当会では、5月15日(金)、16日(土)に鹿児島で開催予定の第30回春季大会(橋口照人大会長)を開催延期(令和4(2022)年)とし、5月24日に東京で開催予定の教育セミナーを中止としました。

私は平成29(2017)年2月24日(金)、25日(土)に第27回日本臨床検査専門医会春季大会を熱海市で開催しました。大会長を拝命し、熱海の地で大会を迎えることを非常に嬉しく思い、準備に余念がありませんでした。橋口先生やスタッフが、5月に向けて準備を進めてこられた負担や労力を顧みると心が痛む思いです。

教育セミナーは臨床検査専門医試験の受験には参考になりますし、教育セミナーを機会に受験者のネットワークづくりが行われることが受験だけではなく、合格後も有用であるといわれています。教育セミナーを延期した場合、開催時期、講師の先生方の日程、会場の調整など非常に厳しい状況になりますし、Webセミナーで受講者に満足が得られるかは甚だ疑問です。このような現状を鑑みて教育セミナーを中止としました。日本専門医機構の集計(2019年3月現在)によると臨床検査専門医は、学会認定が666人、機構認定が139人で、合計しても19の基本領域診療科の中で最少です。会長就任にあたって、臨床検査専門医の人数増を課題に挙げた矢先だけに断腸の思いで決断しました。

鹿児島での学会を楽しみにされておられました会員やセミナー受講者、ならびに関係者には多大なるご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。当会としましては1日も早いCOVID-19の終息を願っております。

最後に、『施して報を願わず、受けて恩を忘れず』は、私の好きな言葉の一つです。江戸中期の陽明学者の中根東里の言葉です。恩を受けた人をいつまでも心にとめておき、人のため、会員のためにさりげなく奉仕するよう努める所存ですので、重ね重ねよろしくお願い申し上げます。

【目次】

p.1	巻頭言
p.2	事務局からのお知らせ、第56回日本臨床検査専門医会総会(メール審議)報告、教育セミナー資料 有料配布のお知らせ
p.3	SARS-CoV-2 対策掲示板設置のお知らせ、2021年度第31回春季大会のお知らせ、第67回日本臨床検査医学会学術集会(盛岡)のご案内、2020年度会費振込のお願い
p.4	住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について、2019年ワークショップ開催のリーダーを任されて
p.5	医学生～初期臨床研修医に興味をもってもらうためのRCPC、日本臨床検査医学会ワークライフバランス委員会サポートセンターの紹介
p.6	会員の声:臨床検査専門医試験合格に際して、感謝と助言および宣誓、編集後記

ログインされましたか?
臨床検査専門医会ネットワーク

会員専用のQ&Aコーナーなどがあります。
IDやパスワードがわからない場合は、
事務局までお問い合わせください。
TEL: 03-3864-0804
E-mail: senmon-i@jaclap.org

HPアドレス (QRコードも対応)
<http://www.jaclap.org/qa/login>



7月に再稼働の予定です。
しばらくお待ちください。

【事務局からのお知らせ】

【会員動向】

2020年6月2日現在数783名、専門医638名

【新入会員】（敬称略）

高山 亜美：新潟大学医歯学総合病院 検査部
関澤 明徳：防衛医科大学校病院 検査部
藤崎知園子：鹿児島大学 血管代謝病態解析学

【所属・その他変更】（敬称略）

上岡 樹生：旧 高知大学医学部付属病院 検査部
新 天理よろづ相談所病院 臨床検査部
金子 誠：旧 東京医科大学 臨床検査医学分野
新 三井記念病院 臨床検査科
小方 則夫：旧 燕労災病院
新 新潟県立がんセンター新潟病院 内科・臨床検査科
福島 万奈：旧 愛媛大学医学部附属病院 病理部
新 福井大学医学部 腫瘍病理学
増田亜希子：旧 三井記念病院 臨床検査科
新 虎の門病院分院 臨床検査部 部長
和泉 透：旧 栃木県立がんセンター輸血管理室
新 独立行政法人国立病院機構
仙台医療センター 血液内科医長

【退会会員】（敬称略）

大川 二郎、黒滝日出一、賀来 敬仁、緒方謙太郎
今井 康文：パブリックヘルスリサーチセンター附属健康増進センター
高木 芳武：株式会社ジェネティックラボ病理診断部
市原 清志：山口大学
滝本 寿郎：春日部市立医療センター 臨床検査科

【2020年行事予定】

2020年の日本臨床検査専門医会の行事予定をお知らせいたします。
開催日時、場所の変更が生じる場合があります。変更があり次第JACLaP WIRE、JACLaP NEWSでお知らせします。その都度ご確認ください。

2020年

2月8日(土) 第1回常任幹事会 終了

5月～7月に予定されておりましたが、春季大会、教育セミナー、振興セミナーはいずれも開催中止となりました。
教育セミナーは、資料の有料配布があります。詳しくは【教育セミナー 資料有料配布のご案内】の項をご覧ください。
鹿児島での春季大会は2022年にあらためて開催を予定しております。

5月21日(木) 第56回日本臨床検査専門医会総会
(メール審議)

9月5日(土) 第2回常任幹事会

11月11日(月) 臨床検査の日を中心として全国検査と健康展
11月19日(木) ～

22日(日) 第67回日本臨床検査医学会学術集会(盛岡)

11月19日(木) 第2回全国幹事会

11月19日(木) 第57回日本臨床検査専門医会総会・講演会

(別表1) 2019年度決算(案)

		2019年度予算額 (補正予算)	2019年度決算額	予算と決算の差
収入欄	会費	6,575,000	5,675,000	-900,000
	賛助会費・寄付金	3,500,000	3,300,000	-200,000
	小計	10,075,000	8,975,000	-1,100,000
	広告収入	200,000	483,424	283,424
	教育セミナー参加費	400,000	550,000	150,000
	生涯教育講演会参加費	200,000	236,000	36,000
	振興セミナー参加費	60,000	58,000	-2,000
	利息	1,000	858	-142
	小計	861,000	1,328,282	467,282
	入金合計	10,936,000	10,303,282	-632,718
支出欄	事務所維持費	1,700,000	1,729,909	-29,909
	人件費	1,750,000	1,496,547	253,453
	設備費	50,000	49,030	970
	電話・FAX使用料	60,000	54,020	5,980
	通信費(事務局)	170,000	171,425	-1,425
	事務局雑費	150,000	144,119	5,881
	小計	3,880,000	3,645,050	234,950
	印刷代	2,000,000	1,075,232	924,768
	要覧印刷代	0	0	0
	通信費	800,000	758,861	41,139
	春季大会補助金	500,000	500,000	0
	臨床検査振興セミナー費	850,000	908,380	-58,380
	教育セミナー費	650,000	662,324	-12,324
	会議費	1,000,000	998,060	1,940
	交通費	100,000	90,310	9,690
	宿泊費	30,000	24,400	5,600
	原稿料	50,000	0	50,000
	専門医会HP開発費	1,738,000	1,925,000	-187,000
	専門医会ネットワーク移設費用	91,800	0	91,800
	専門医会ネットワーク維持費	100,000	96,082	3,918
	HP維持費	170,000	142,855	27,145
	広報活動費(委員会HP)	50,000	27,000	23,000
	JCCLS会費	50,000	50,000	0
	WASPALM会費	55,000	98,180	-43,180
	臨床検査振興協議会	300,000	300,000	0
	内保連	200,000	200,000	0
	予備費	151,000	0	151,000
	小計	8,885,800	7,856,684	1,029,116
	支出合計	12,765,800	11,501,734	1,264,066
	収支決算	-1,829,800	-1,198,452	631,348
	前年度繰越金+定期預金		29,960,670	
	次年度繰越金+定期預金		28,762,218	

【第56回日本臨床検査専門医会総会(メール審議)報告】

5月16日開催予定の第56回日本臨床検査専門医会総会(2020年第1回総会)は、新型コロナウイルス感染防止のため中止となり、メール審議での開催となりました。

<審議事項>

第一号議案：2019年度決算案について(別表1)

第一号議案については異議の連絡がなく、承認されました。

<報告事項>

各種委員会等報告

【教育セミナー資料 有料配布のお知らせ】

(教育研修委員会より)

臨床検査専門医の取得を目指す皆様の準備の一助となるよう教育セミナー担当講師の協力により資料を作成しました。
資料購入ご希望の方は以下の要項に従い、お申し込みください。

教育セミナー資料申し込み要項

募集対象：日本臨床検査専門医会に所属し今年受験または来年以降受験予定のある方(本会非会員の方は入会申し込みをお願いします。資料申し込みと同時に入会申し込みも可能です)、日本臨床検査専門医会所属ではないが、臨床検査医学に興味・関心のある初期研修医と医学生

申し込み期間：令和2年6月1日～7月15日

配布予定期間：6月15日以降資料冊子ができ次第レターパックライトにてお送りします

資料内容：一般臨床検査学／臨床化学・免疫学／臨床血液学／臨床微生物学／輸血学／臨床生理学／臨床検査診断特性評価と精度管理／遺伝子検査学／臨床検査室管理総論、

昨年度専門医試験合格者による体験談

※臨床微生物学検査、輸血学検査の実技デモンストラーションの動画(DVD)

代金：5,000 円(申し込み書提出後振り込みをお願いします)
申込方法：本会ホームページより、申込書をダウンロードください。

必要事項を記入し、日本臨床検査専門医会事務局へ FAX 送信、あるいはメールに添付してお送りください。

FAX 番号：03-5823-4110

メールアドレス：senmon-i@jacpl.org

ご不明の点は事務局までお問い合わせください。

【SARS-CoV-2 対策掲示板設置のお知らせ】

(広報委員会より)

専門医会会員ネットワーク内に SARS-CoV-2 対策掲示板を設置しました。PCR の技術関連、精度管理、検査者の PPE(個人防護具)等、内容は問いません。検査管理体制の情報共有やそれらに関する疑問等、みなさまのディスカッションの場としてご利用ください。

SARS-CoV-2 対策掲示板

URL：https://bbs.jacplap.org/virus/index.cgi

(閲覧には Password が必要です。閲覧をご希望の方は事務局までメールでご連絡ください)

【2021 年度第 31 回春季大会のお知らせ】

大会長：植木 重治(秋田大学大学院医学系研究科 医学専攻 病態制御医学系総合診療・検査診断学講座 准教授)

期 日：2021 年 5 月 21 日(金)～22 日(土)予定

会 場：秋田市拠点センター ALVE

【第 67 回日本臨床検査医学会学術集会(盛岡)のご案内】

諏訪部章学術集会長より、現時点での予定が届きましたのでご案内します。

第 67 回日本臨床検査医学会 学術集会(概要)

会 期：2020 年 11 月 19 日(木)～22 日(日)※翌 23 日は勤労感謝の日で祝日

会 場：アイーナ(いわて県民情報交流センター)、マリオス(盛岡地域交流センター)

※いずれも盛岡駅に隣接

テーマ：人工知能(AI)時代の臨床検査

ホームページ：http://jslm67.umin.jp/

会 長：諏訪部 章(岩手医科大学医学部臨床検査医学講座)
事務局長：鈴木啓二郎(岩手医科大学医学部臨床検査医学講座)

主な内容：

- ・メインテーマ：人工知能(AI)時代の臨床検査に沿った企画 AI と臨床検査に関する特別講演、教育講演、シンポジウムの開催。
参加者体験型 AI 検査室(検体検査、生理検査)を設営。
- ・特別講演：
 - I. 東條有伸先生(東京大学医科学研究所 分子療学分野 教授)内容未定
 - II. 中田典生先生(東京慈恵会医科大学 ICT 戦略室 室長) 内容未定
- ・教育講演：
 - I. 清水厚志(いわて東北メディカルメガバンク機構 副機構長)「いわて東北メディカルメガバンクの取り組みと成果(仮題)」
 - II. 柳原克紀(長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科病態

解析・診断学分野<臨床検査医学>教授)

「新型コロナウイルスに関するアドホック委員会の活動について (仮題)」

III. 櫻井 滋(岩手医科大学附属病院 感染制御部 部長)
「新型コロナウイルス感染者ゼロを続ける岩手県の取り組み(仮題)」

IV. その他にも教育講演を計画中

- ・臨床検査に何を求めるかー各科学者からの提言：糖尿病学会を予定。
- ・学会共催シンポジウム：多数の学会との共催シンポジウムを予定。
- ・日本医療情報学会との共催シンポジウムは、2 会場での同時中継開催を予定(日本医学会連合加盟学会連携フォーラム補助金事業)
- ・委員会企画：EBLM 委員会(シンポジウム、セミナー)、教育委員会(RCPC、キャッチアップセミナー)、ワークライフバランス委員会、チーム医療委員会、医療安全委員会、臨床検査点数委員会、倫理委員会・利益相反委員会、ガイドライン作成委員会など、多数の委員会企画を予定。
- ・一般演題：他の学会企画(シンポジウムや単位取得のための講習会など)と重複しないようにするために、原則ポスターとする。その中からトピックとなるテーマを選定してミニシンポジウムを企画予定。
- ・学会最終日の午後までじっくり学会を楽しめる企画：本学会初めての ICD 講習会を開催 テーマ「院内感染対策に有用な微生物検査～薬剤耐性菌を中心に～」司会：萱場広之(弘前大学)、柳原克紀(長崎大学)

1. 国内外における薬剤耐性菌の現状：
森兼啓太(山形大学)
2. 日常検査における耐性菌の検出法：
山田友紀(岩手医科大学)
3. 耐性菌検出における遺伝子検査(核酸検査)の進歩：
森 永芳智(富山大学)
4. 院内感染対策に役立つ分子疫学手法(POT 法)：
中家清隆(大阪市立大学)

EBLM 委員会企画セミナー、教育委員会企画キャッチアップセミナー、POC セミナー、パニック値関連シンポジウム、日本臨床検査医学会東北支部総会・日本臨床化学会東北支部総会、その他にもイベントを企画中。

【2020 年度会費振込のお願い】

2020 年度の会費の納入がまだお済みでない方は振込をお願い致します。

尚、未納分のある会員の方は合計額の振込をお願いします(納入状況は振込用紙に記載してあります)。

2020 年度年会費：10,000 円

(2020 年 1 月 1 日現在、70 歳以上の方は 5,000 円)

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店(ゼロイチキユウ店)

預金種目：当座 口座番号：0020509

口座名：日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の振込状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または FAX でお問い合わせ下さい。過去 2 年間会費を滞納している先生には、Lab CP、JACLaP NEWS、要覧の発送を停止いたします。悪しからずご了承下さい。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にとともって定期刊行物、JACLaP WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせください。変更事項はホームページから【会員情報変更届】をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail でお送りください。

<連絡先> 日本臨床検査専門医会 事務局

(水・土日祝祭日は休業日)

電話：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110

メールアドレス：senmon-i@jaclp.org

【2019 年ワークショップ開催のリーダーを任されて】

第 66 回日本臨床検査医学会学術集会(岡山市)において、ワークショップ (WS)「臨床検査専門医の育成を考える」(主催：日本臨床検査医学会ワークライフバランス委員会、広報委員会、教育委員会、共催：日本医師会)で五十嵐岳先生(聖マリアンナ医科大学)と一緒に担当リーダーをさせて頂きました。はじめは、突然でした。今から 2 年前の日本臨床検査医学会(東京、京王プラザ)でのワークライフバランス委員会で「来年は、関西の岡山市での開催なので関西に住む尾崎先生に WS 責任者をお願いします」と委員長の田部先生(順天堂大学)から依頼され、その時は「依頼されたこと」よりも、「話の内容に違和感」があり、その違和感に気を取られているうちに、その場で「はい」と返事していた自分が、そこにはいました。不思議な会話でした。まず、この原稿を読まれている関西に住んでおられる方は、私の「違和感」がすぐにわかると思いますが、①「岡山市は、関西ではない」。②「和歌山市は別として、私のいる紀南地方は、わたしは関西とは思っていません」でした。紀南地方を関西(京都・大阪・神戸の周辺)のグループに入れて頂き、田舎者の私は嬉しくもあり、光栄です。とにかく、その場で「はい」と返事してからは、「いつものようになんとかなる」と勝手に考えていたのです。その時には想像もできなかったのですが、ワークライフバランス委員会の各メンバーの物凄さを知るのは、それから半年後のことです。その物凄いメンバーの協力と絶え間ない刺激もあり、今、この原稿を書けると思うと僕は本当に幸せです。

不思議なのは、このワークライフバランス委員の個々人が、本当に個性が強いことです(私が保証します)。この個性の強いメンバーを、どういうわけか、まとめあげられる田部先生も実はすごいのでしょう(おそらく)。

せっかく、責任者を任されたのだから、まずは自分も楽しもうと考えました。その年の 12 月に、五十嵐先生から、学生・初期研修医を対象とした RCPC チャレンジの話があり、某テレビ番組の臨床研修医を対象とした「総合診療医ドクター G」のようなことをやろうと考えていたので、五十嵐先生の誘惑に飛びつきました。「やりたい」と思い、その翌日には院長室に行っている私がいました。テレビ番組の総合診療医ドクター G の話をしながら「紀南病院の研修医を参加させてほしい」と頼みました。翌 1 月の医局会で院長・副院長から連絡があり、「紀南病院の研修医参加」が決まり、ゆっくりとですが WS に向けての動きが感じられました。昨年 3 月のワークライフバランス委員会では、WS タイトルが「臨床検査専門医の育成を考える」と決まり、①(前半)学生・初期研修医を対象とした RCPC チャレンジと、②(後半)ポスターセッションで行うことが決定しました。私はこの後、ワークライフバランス委員の凄いところに直に遭遇することにな

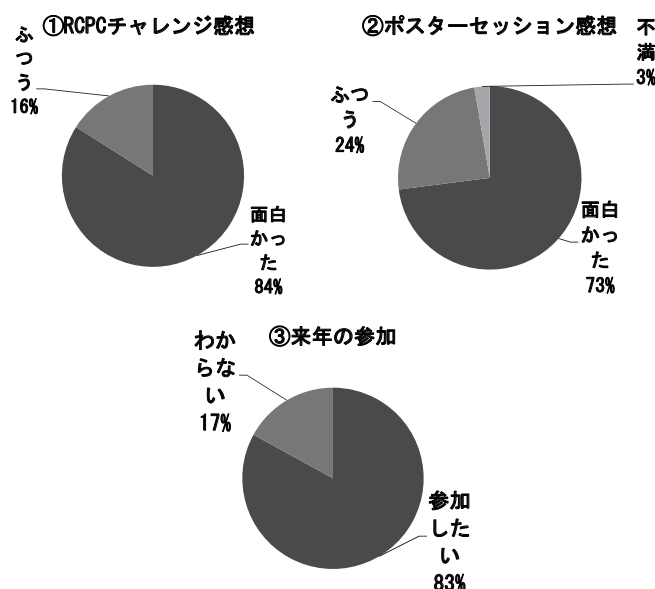
りました。RCPC チャレンジ用問題(症例提示)、参加する学生・初期研修医の呼びかけと参加登録のまとめ、ポスター演題登録と、学会ホームページへのバナー作成、補助金と配布方法、学生・研修医の学会参加費無料手続き、当日の会場設営・お弁当手配と、どんどん、どんどん意見とアイデアがでて、いったい「みんなは何者」と思わせる様相を呈していました。メンバーの様相は少数精鋭の機動力から次第に、私の大好きな海戦術へと変わりました(熊野水軍の末裔が多い紀南地方の匂いがしませんか?)。一言「すごい」。ですが、時々、ふっと思うことがあります。「そもそも僕には、こんな能力はないな」と。

今回、WS をやってよかったと思うことは、①学生・研修医からも好評との意見が出ていたこと、とくに紀南病院の研修医から「いい思い出ができた」と、後日談で言ってもらえたことは本当にうれしかった。②WS に参加された方々からも過半数の方々から好評を得たこと、③今回参加者の過半数の方々が、来年も参加したいという結果を得ることができたことです。ただし、複数の方々から、今回の反省点と今後の改善点のご指摘があったことは、貴重なご意見として今後に活かすことができればと考えます。

大きな学術集会の中の一つのセッションではありますが、WS 準備段階、そして学会当日と多くの方々に助けて頂きました。特に学術集会長に通山先生には随分と配慮を頂きました。臨床検査医学会ワークライフバランス委員会、広報委員会、教育委員会の委員の方々には当日も積極的に協力して頂きました。驚いたのは、WS 後のお昼の反省会で、山田先生、田部先生の他に矢富先生も学生・研修医・スタッフと一緒に弁当を食べながらの反省会に参加されたのは驚きでした。私的には紀南病院の多くの方々に、随分と無理をいってしまいました。それでも、こんな私に最後まで付き合ってくれた有難うございました。いつも思うのですが、なんでも、ひたすら目標に向かって頑張っていると、不思議と多くの方々が助けてくれることを、今回も体験しました。そして、小さな自分を知ることができました。今回の体験は、また自分を少し成長させることになると思います(うれしい)。あれから随分と時間がたった今も心に残るのは、何故か感謝の気持ちです。不思議といつも思います。

(和歌山県紀南病院中央臨床検査部長 尾崎敬)

以下①②③ ワークショップ (WS)「臨床検査専門医の育成を考える」でのアンケート調査結果です。



【医学生～初期臨床研修医に興味をもってもらうための RCPC】

第 66 回日本臨床検査医学会学術集会においてワークライフバランス委員会主催で行ったワークショップでは、学会最終日にも関わらず、145 名もの方々に御参加いただき、大変盛況に終えることができた(御参加いただいた皆様、御助力いただいた皆様、誠にありがとうございました)。ワークショップ終了後、数名の方から“どのようにして RCPC を行うと良いのか?”といったご質問をいただいたので、本稿では医学生～初期臨床研修医対象 RCPC を考えつくに至った経緯と“講義する上で大切と考えているポイント”を記載させていただこうと思う。

当大学での話になるが、看護学校 1 年生の検査関連講義を自分が担当させていただいている。ただ、高校生とほぼ変わらない、臨床現場を一度も見たことがない彼女達に検査関連講義を行い、“将来、あなた方も検査に関わることになるのだから、その意義を覚えてね”とこちらが話しても…検査に興味を抱いてくれる要素はゼロである。ここ、試験に出すからね!と脅しながら授業を進めるのは簡単だが、それでは本当の意味で学んだことにはならない。試験が終わった瞬間に忘却されてしまう知識を提示していくのは、講義を行う側としても少々悲しいものがある。

では、どうするべきか。いろいろと考慮した末、ある年“問題を提示して考えてもらう講義”への変更を行ってみた。問題は医師国家試験から引用した胆石胆管炎、そしてその検査項目を解釈せよと提示したのである。看護学生でも WBC や PLT は聞きかじったことがある学生がいるが、AST や ALT、 γ -GTP 等、これまでに習ったことも聞いたこともない項目に関しては、調べ方もわからない学生が多い。調べ方がわからないと嫌になってしまう確率が高まるため、指定教科書を彼女達が扱いやすいであろう「やさしくわかる 看護師のための検査値パーフェクト事典(奈良信雄先生、ナツメ社)」に変更、授業中のネット使用も許可、自分達で調べられる環境を構築した。調べる時間は集中力がギリギリ途切れない 45 分、彼女達が調べている間は自分も間をまわってコミュニケーションをとり、ドロップアウトしないようにヒントを与えて解答へ誘導するような講義に変更した。

年 4 コマ程度と決して多いコマ数ではないが、変更した講義方法が本当に彼女達の為になっているのか、期末テストに感想欄を設けた。例年いろいろな意見が寄せられるが、本年度は過分な評価をいただいたので、原文のまま図 1 に記す。

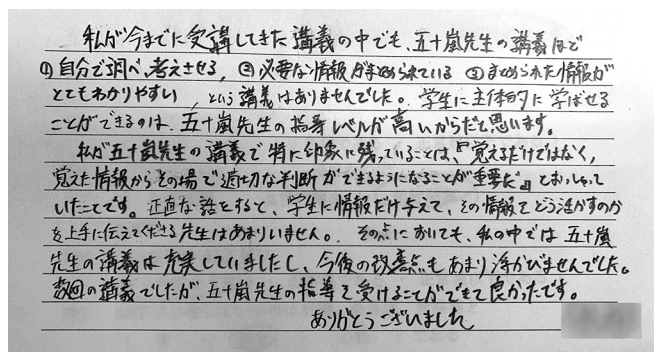


図 1 2019 年度に受講した当大学看護学生の感想

このように“考えてもらう”“コミュニケーションをとる”“ドロップアウトしないようにする”ことに気をつけた双方向性講義を行うと、学生の興味を惹きやすいと個人的には感じている。そして、上記の看護学生に比べると、検査を主体的に行う意識を持つ医学生～初期臨床研修医に教えることは比較的容易であり、この方法を応用したのが、今回の“医学生～初期臨床研修

医対象 RCPC”である。

学生は“自分の興味あるなし”に関して、大人以上にシビアな態度を示す。臨床検査医学界にとって若手のリクルートは非常に重要であると考えるが、興味がないことに若手は寄ってきてくれない。そのようななか、RCPC は“パズルの必要な要素があって、若手が面白いと感じてくれる”要素があり、臨床検査独自の PR として成立させられるのではないかと考えている。RCPC をきっかけに検査医学に興味を持ち、専攻医になってくれる若手医師が少しでも増えると良いと考えているので、岡山ワークショップで行ったような RCPC を開催してみたいと考えられている方は、自分までお声掛けいただければ幸いである。

(日本臨床検査医学会ワークライフバランス委員会 五十嵐岳)

【日本臨床検査医学会ワークライフバランス委員会 サポートセンターの紹介】

はじめに

2019 年末現在の臨床検査専門医数は、606 名である。基本診療科の中では最も少なく、次に少ないリハビリテーション科専門医でも 2,000 名を超えている。2017 年に医療法が改正され、検査室の品質・精度管理を適正に行うために臨床検査専門医が積極的に関わることが求められており、専門医数を確実に増やしていくことが課題である。新専門医制度ではプログラム制での専攻医研修が原則であるが、初期研修医で最初から臨床検査専門医を目指す人はごく少数である。また、カリキュラム制の研修も認められるとはいえ、臨床検査専門医資格の取得に関心のある医師への情報提供が十分なされているとは言えない状況である。日本臨床検査医学会のホームページ内にワークライフバランス委員会が関わって開設しているサポートセンターについて紹介させていただく。

1. ワークライフバランス委員会サポートセンターについて

2016 年度より、日本臨床検査医学会ホームページ上に臨床検査専門医資格取得に関する「専門医相談・サポートセンター」を開設し、現在は筆者が電子メールでの問い合わせ窓口となっている。年間十数件の相談があり、サポートセンターのメンバーで共有したうえで回答している。過去の相談内容を元に、「受験資格と認定施設での研修に関する Q&A」を作成しホームページに掲載している。相談者への返信の際には、相談内容に応じて、本専門医会のセミナー、臨床検査医学会の学術集会、ハンズオンセミナーの開催等についての情報提供も行っている。

2. 過去 2 年間の活動実績

2018 年は 16 名、2019 年は 15 名からの相談を受けた(継続相談を含む)。計 31 名中、女性は 11 名であり、子育て中の方が 5 名であった。また、初期研修医 2 名、後期研究医 1 名からも相談があった。内容については、カリキュラム制での専門医資格取得についての相談が 18 名と最多であり、次いで受験のための研修実績・受験資格についての相談が 7 件等であった。カリキュラム制での専門医資格取得については、自施設が研修認定施設となっていないため、近隣でパートタイムにて研修を受けられる施設がないかという相談が 10 件あった。2019 年にワークライフバランス委員会として、研修認定施設へ研修受入体制についてのアンケートを実施し、75 施設中 48 施設から回答をいただいた。研修希望者 3 名について、近隣の研修施設の研修責任者へ筆者がメールにて相談を行い、相談者との橋渡しを行った。31 名の中から、臨床検査専門医の研修を開始されたり、専門医試験に合格された医師が出てきている。

3. 課題と今後の展望

主な課題として、サポートセンターのメンバーも相談者に回答できる十分な情報を持ち合わせていない場合があること、日本臨床検査医学会の会員にサポートセンターの存在が十分認知

されていないことが挙げられる。今後の展望としては、1. 研修認定施設のうち、受け入れ体制についてのアンケートに未回答の施設からも情報をいただくこと、2. サポートセンターの活動についての学会員へ周知、3. 各学会員に勤務されている地域でのリクルート活動の実践とサポートセンターの存在をお知らせいただく、4. 広報委員会等、サポートセンター以外で行われているリクルート活動との連携の強化、が必要と考える。

質の高い検査室運営に関わる臨床検査専門医を増やすため、サポートセンターの充実は重要であり、関係者と協力して発展させていきたい。

「臨床検査医学 サポートセンター」でグーグル検索すると、一番上に臨床検査医学会の「臨床検査専門医を目指す方へ」のページと E-mail アドレス：support@jslm.org が表示される。皆様の周囲に臨床検査専門医取得を働きかけたい医師がいらっしゃったり知り合われた際には、ぜひサポートセンターについての情報提供も行っていたいただくと幸いである。

本稿は、第 65 回日本臨床検査医学会学術集会の委員会企画において発表した内容に追記等を行ったものである。

(横浜市立市民病院検査部 千葉泰彦)

【会員の声】

臨床検査専門医試験合格に際して、感謝と助言および宣誓

平成 31 年度に日本臨床検査専門医会に入会させていただき、また、臨床検査専門医試験に合格いたしました、広島大学病院血液内科、三原圭一郎と申します。

小生はもともと研究志向であったため、国立がんセンター研究所、アメリカ・テネシー州・セントジュード小児研究病院で長年研究を行い帰国しました。次第に膨れ上がる外来患者数(一日 50 人以上、週 3 回)および複雑な疾患・環境を持つ入院患者さんを診る毎日で忙殺され、研究への意欲を失いつつあったころ、大学のサッカー部の大先輩で、前広島大学医学部臨床検査医学教授・神辺真之先生のご推薦もあり、広島県・広島市衛生検査所の精度管理を行う命を拝受いたすことになりました。臨床検査医学はまさしく、「研究・ラボワーク」と「臨床」との中間的位置づけと考えられ、私のような研究志向に臨床をというような医師にとって臨床検査医学は極めて適していると思われ、その道へ一步踏み出す契機となりました。そのためにも専門医試験を受けて、さらにモチベーションをと考えましたが、なかなか足と頭?が遠のいていました。しかし、仲のいい友人が某大学の臨床検査医学・教授となり、彼の勧めもあり、やっと今年、専門医を受験する決心をいたしました。臨床検査の「いろは」から試験勉強にいたるまで、広島大学病院検査部部長・横崎典哉先生には多大なるご指導ご鞭撻を賜り、この場を借りて深謝いたします。

実際、試験勉強には、「標準臨床検査医学(高木康/山田俊幸編)」が大変勉強になりました。すこし刊行が古い印象がありましたが、それを感じさせない広範かつ十分な臨床検査知識を包含した素晴らしい本であると思います。小生は感染症に少し弱いと認識していたため、その実技・知識には当院・検査部・感染症検査グループの技師さん方々および外勤先(原田病院)の技師さんに優しく教えていただき、必要十分な技量・知識が備わったように感じます。質問にさらっと答える技師さんたちの経験・知識、およびその美貌!に感服いたしました!また、知識をさらに埋め合わせるには「できる!見える!活かす!グラム染色からの感染症診断～検体採取・染色・観察の基本とケースで身につく診断力(レジデントノート別冊)(田里 大輔)」がよかったと思います。私は血液専門医であるため骨髓検体を見ることには苦労はありませんでしたが、WHO 分類は度々変更・更新があり、血液内科専門医であってもすべてを把握するのは困難であるため、専門でない先生方は FAB 分類だけでもいいような気がします。最も参考になったのは、日本臨床検査専門医会・教育セミナーおよびその資料であり、これだけでも試験勉強の指針になるのではないかと考えいたします。

筆記試験は広範かつ難問であります。しかし、今になって考えても臨床検査専門医にはこれくらいの知識は確かに知っておく必要があると思えるような良問ばかりであったと思います。総じて必要不可欠な知識・技量に基づいた試験であったと思います。一朝一夕で賄えるものではなく、毎日の積み重ねが大切であると実感させられました。また、口頭試問では優しく質問していただき、専門医をとりとうと思った契機・モチベーションなどを巧みに引き出していたように感じました。試験全般において言えることは決して篩にかけて落としてやろうなどという考えは全くなく、むしろ何とか通してあげようという優しい配慮がちりばめられていたような気がしてなりません。

今回、臨床検査専門医になることができましたが、これはあくまで臨床検査医学への「入口」であり、これからは真の意味での専門医になる「修行」であると思います。知識ばかりではなく、検査技師さんとの連携など勉強・研鑽することは山積みですね。力を分けていただいた先生方、技師さん方へのお礼・感謝の意味を込めてここに再度深謝するとともに、たゆまぬ「修行を」続けていきたいと誓う次第です。今後ともご指導ご鞭撻よろしく願いいたします。

(広島大学病院血液内科 三原圭一郎)

【編集後記】

会員の皆様のおかげで、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行時にも順調に発刊できたことに感謝申し上げます。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

(編集主幹 九州大学病院検査部 後藤和人)

日本臨床検査専門医会

会 長：谷直人、副会長：菊池春人(法人化検討 WG)、村上純子(女性医師支援 WG)

常任幹事：東田修二(庶務・会計幹事)、五十嵐岳(広報委員会委員長)、田部陽子(教育研修委員会委員長)、東條尚子(資格審査・会則改定委員会委員長)、福地邦彦(情報・出版委員会委員長)、増田亜希子(ネットワーク運営委員会委員長)、三井田孝(保険点数委員会委員長)、横崎典哉(渉外委員会委員長)

監 事：土屋達行、古川泰司

全国幹事：伊藤弘康、稲葉 亨、植木重治、大西宏明、上岡樹生、北中 明、木村 聡、木村秀樹、下 正宗、千葉泰彦、中島 収、中村聡子、藤井 聡、松井啓隆、松野容子、山崎悦子、山崎正晴

情報・出版委員会：

委員長：福地邦彦

委 員：五十嵐岳、出居 真由美、後藤 和人、信岡 祐彦、盛田 俊介、吉田 博

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町 1 番地 第 3 東ビル 908 号

TEL：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110 E-mail：senmon-i@jacpl.org